

# ひと

いけがわ  
池川

医療費の窓口負担「ゼロの会」の責任者を務める

あきら  
明さん



診察室に、色鮮やかなグリーンの「ゼロの会」リーフレットを常備。患者さんに伝えることから始めています。

開業医団体・神奈川県保険医協会が「重過ぎる患者負担の解消は緊急の課題だ」と「ゼロの会」を発足させたのは一月。以来、医療運動担当の副理事長として記者会見や講演会、講師と多忙な日々です。賛同者は現在約三千人。映画監督

横浜市在住。家族は妻と歯科大生の娘。太極拳三段が目標。52歳

でサラリーマン本人はゼロでした。だって高い保険料を払っているじゃない」

「ゼロの会」の出発点は「安全でいい医療をしたいという発想」です。三浦半島に近い横浜市金沢区で産婦人科を開業して十七年。取り上げた赤ちゃんは千六百人近くになります。「命の誕生にかかわれる」と強い愛着がある仕事。それだけに政府の医療費抑制政策による「産科崩壊」への強い危機感があります。

いい医療をするためには医療費を増やさないといい。でも窓口負担三割では、医療費増は患者に跳ね返る。

「これを解決するのが窓口負担ゼロなんです。すぐに実現できる課題とは思いませんが、気負わず、腰をすえてやっつけていきたいですね」。趣味の太極拳のように、あくまで「自然体」です。

文・写真 宮沢 毅